

ビジネス

米政権、たばこのニコチン大半除去を義務付けへ



米政府のニコチン削減計画は、おそらく数年間は実施されないだろう

PHOTO: MARIO TAMA/GETTY IMAGES

By Jennifer Maloney

2022年6月22日 08:48 JST

バイデン米政権はたばこに含まれるニコチンをほぼ全て除去するよう義務付ける方針だ。950億ドル（約13兆円）規模の米たばこ業界に大きな影響をおよぼすとみられ、保健当局は喫煙者が数百万人減る見込みだとしている。

今回の計画は、政府がアジェンダとして掲げる規制措置の一環として21日に公表されたもので、施行されるのは数年後になる可能性が高い。米食品医薬品局（FDA）は2023年5月に規制案を発表する予定で、その後に一般からの意見を公募し、最終的な規則を取りまとめる。たばこメーカーがその後に訴訟を起こす可能性もあり、その場合は施行がさらに先延ばしされることもあり得る。

ウォール・ストリート・ジャーナル（WSJ）はこれまでに、FDAがニコチン削減の義務付けを計画していると報じていた。

米国ではここ数十年、喫煙率が低下しているが、新型コロナウイルスのパンデミック（世界的大流行）が発生した2020年にわずかに上昇した。米疾病対策センター（CDC）によれば、20年のたばこ喫煙者は国内の成人の約12.5%に相当する3080万人だった。

ニコチン含有量引き下げの対象となるのは、国内で販売されているすべてのたばこで、従来の商品の輸入は禁止されることになる。

たばこ業界の幹部らは低ニコチンのたばこに関する科学的な議論にはまだ結論が出ていないとし、このような規則が設けられればたばこの不法取引が拡大すると述べている。大手たばこメーカー各社はニコチン含有量が極めて少ないたばこの開発には数年かかり、大量生産の実現は難しいと指摘している。